Japan Society of Medical History

3．病院船氷川丸回顧

鈴木　衛

戦争は徒労であるが、病院船の使命は崇高である。私は昭和18年 4月より19年 8月まで氷川丸に乗り組み、勤務していたので、その回顧談を試みた。

順序として

1. 緒言および病院船の安全性について。
2. 氷川丸に関する著書６冊の展示。
3. 病室の設置、設備。
4. 私の乗船期間中の航海記録と経験談、目撃談を行った。

私の航海は 1次から 9次にわたった。それらの航海中におきた主な事柄を述べた。すなわち、トラック島夏島航空基地での赤痢撲滅、船内集談会の様子、海軍軍医学校同期の戦友との別れ、および入院、いわゆる“西南廻り”における出来事として、アンボンでの事件、重巡最上への臨時派遣、久邇宮殿下の入院、メレヨン島での触雷、船内風景など。

医療面として、患者の収容手続き、治療の実態について話した。外科でもっとも多かったのは火傷で、ついで骨折、爆傷、下腿潰瘍（熱帯潰瘍）などで、これらにたいする処置も述べた。内科ではマラリア、アメーバ赤痢、栄養失調症が多く、当時の治療法を振り返ってみた。マラリアには、型の如く、キニーネ、アテブリン、プラスモヒンの錠剤を使用し、バグノン注射、ヨード鉄シロップも試みた。アメーバ赤荊の肝膿瘍併発例には、穿刺をおこない経過を観察した。そのほか稀な症例数例についても説明した。

処方では水剤、散薬、錠剤、注射剤にわたり、その名称を列記し、適応も解説した。約束処方は13種あった。

患者食は一般食と特別食に二大別され、前者は粥食と常食に分けられた。後者は糖尿病食、腎臓庇護食Ａ、Ｂに分け、その上に厳、中、軽とに分類した。なお、外科的結核無塩食餌、貧血患者用食餌もあった。

さらに、昭和11年海軍処方集のコピーも展示した。

NII-Electronic Library Service